

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の理解		授業の種類 講義		授業担当者 滝北 利彦	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の多面的理解と尊厳の保持、自立した生活を支える必要性について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人権、自立に関わる諸問題を取り上げ、学生自身が自ら考え、表現出来るようにディスカッションも加える。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護を受ける人の尊厳を守ることの意義と配慮すべきことを理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間理解 2. 尊厳の考え方 3. 生活をとおした尊厳と自立の理解 4. 生きる勇気の回復 5. 尊厳と自立をめぐる人間の歴史 6. 尊厳と自立をまもる現代社会のしくみ 7. 尊厳と自立に関わるかかわる実情 8. 尊厳と自立に関わる課題 9. 介護における権利擁護 10. 介護における人権尊重 11. 介護における自立支援 12. 介護における尊厳保持の実践 13. 介護における自立支援の実践 14. 介護の尊厳、自立の概念のまとめ 15. よりよき人生を送るために 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション論		授業の種類 講義		授業担当者 阿部 聖史	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 自己理解と他者理解を深めることにより人間理解に繋げていくことと、人間関係形成のためのコミュニケーション能力を習得することを目的とする。					
[授業全体の内容の概要] 学生同士及び教員と学生の人間関係の構築の場となるよう、自己洞察、自己理解が出来るグループワークを取り入れる。コミュニケーションの幅広さを理解し、技術が習得できるよう、総合的なコミュニケーションを学習できる内容とする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] コミュニケーションの意義と情報の受け渡しには様々な方法があることを理解するとともに、基礎的なコミュニケーション能力を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 人間関係と心理 (自己覚知、他者理解、ラポール) 2. 関係作りのための人間の理解 (個々人の認知の世界、ストレス) 3. 人間関係のさまざまな広がり 4. 発達と人間関係 5. エコロジカルな視点から見た人間関係 6. 集団力学から見た人間関係 7. 対人関係とコミュニケーション 8. コミュニケーションとは 9. コミュニケーションの目的と方法 10. コミュニケーションを促す環境 11. コミュニケーションの技法 カウンセリングの技術 12. 言語的、非言語的コミュニケーション 13. 受容、共感 傾聴 14. 機器を用いたコミュニケーション、記述によるコミュニケーション 15. 理解力と表現力とは					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」 他			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活と福祉		授業の種類 講義		授業担当者 忠澤 智己	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解することを目標とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間の生活について具体的な出来事を概念が結びつくような様々な生活史の演習を取り入れる。社会という集団の中でそれぞれが役割を果たしつつ自己実現することが自立であることを理解できるよう生活問題とは何かの視点を取り入れる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を持つ。自立した生活は社会の関わりの中で営まれることを自助、互助、共助の意義とともに理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の構造 2. 家族とは 3. 家族形態、機能 4. 家族を取り巻く社会的状況 5. 地域社会と個人 6. 高齢者世帯の支援 7. 障害者（児）の支援 8. 子育て支援 9. 虐待 10. 現代におけるライフスタイルの変化 11. 生活問題とは 12. 人と社会組織 13. 市民社会のあり方 14. 生活の支援と福祉の体系 15. 自助、互助、共助の内容 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座 2「社会と制度の理解」 他</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 試験</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会保障制度	授業の種類 講義	授業担当者 太田 正	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。			
[授業全体の内容の概要] 現在の社会保障の状況を社会保障全体を整理しながら理解し、国民生活に全て必須であることをイメージできる内容とする			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 社会保障制度は国民が意欲的に働き、子育てをし、勉強し、社会活動に参加するなどの生活を支えており、それぞれのライフステージに応じて様々な制度が構築されていることが理解でき、支援者として応用することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1 社会保障制度の基本的な考え方 2 日本の社会保障制度の発達 3 社会福祉法 4 国民皆保険、国民皆年金 5 日本の社会保障制度のしくみと基礎的理解① 6 日本の社会保障制度のしくみと基礎的理解② 7 現代社会における社会保障制度 8 介護保険制度の背景と目的 9 介護保険制度の動向 10 介護保険制度のしくみと基礎的理解① 11 介護保険制度のしくみと基礎的理解② 12 介護保険制度における組織団体、専門職の役割 13 障害者自立支援制度の背景と目的 14 障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解 15 障害者自立支援制度における組織団体の役割			
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 2「社会制度の理解」		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 試験	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） リハビリテーション		授業の種類 講義		授業担当者 佐々木 良	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として必要なリハビリテーションと障害に関する基本的な考え方、サービス体系のあり方、リハビリテーションサービスの実際について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 実際の症例を通して、介護福祉士の機能と役割について学習し、介護福祉士がチームアプローチの中で他の専門職と情報交換しながら日常の身体介護や生活支援に活かしていくことの重要性について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 障害の変化に伴う生活状況を把握し、それを記録して他の職種に情報を提供することも大切な役割であることを理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近年のリハビリテーション（近年のリハビリテーションの現状と一般的流れ） 2 リハビリテーション理念（リハビリテーション理念と障害に対する基本的な考え方） 3 リハビリテーションサービス（サービスのニーズや福祉的サービス、環境資源の活用と、サービス利用の留意点） 4 障害とリハビリテーション①（高齢者特有の障害とリハビリテーション：学生による授業発表） 5 症例発表に関するグループ討議 6 障害とリハビリテーション②（小児の障害とリハビリテーション：学生による授業発表） 7 障害とリハビリテーション③（身体障害とリハビリテーション：学生による授業発表） 8 障害とリハビリテーション④（知的障害とリハビリテーション：学生による授業発表） 9 障害とリハビリテーション⑤（精神障害とリハビリテーション：学生による授業発表） 10 地域リハビリテーション 11 実習（寝返り、起き上がり、車椅子への移乗介助①） 12 実習（寝返り、起き上がり、車椅子への移乗介助②） 13 グループ討議内容の発表① 14 グループ討議内容の発表② 15 グループ討議内容の発表③ 					
[使用テキスト・参考文献] 特になし（適宜レジュメ配布）			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） レポート課題提出		
実務経験のある教員による授業			理学療法士として、医療機関に勤務している。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活文化	授業の種類 講義	授業担当者 明山 健師
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年
必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] その人その人の生きてきた時代背景やできごとは本人にとっては色あせることはない。過去を肯定することで、現在である今を生きることができる。人を理解するには「その人が生まれてこれまで歩んできた道程」を把握し検討することが援助者には求められる。生活文化史において、それを実践する。		
[授業全体の内容の概要] 主に明治以降の人々が生きてきた姿の過程を研究する。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 異世代間の関わりが少ないといわれている現代であるが、本講義を通じて我々の生まれている社会を再確認するとともに各々が生きてきた時代の文化を共有することで相手への理解を深める。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
コマ数		
1 生活文化史を学ぶとは 生活文化とは何か。自身の生活文化を振り返る。		
2 平成時代 監視される都市生活。排除するベンチ。町田市の例。		
3 「現代社会」について 消費社会・情報化社会・大衆社会		
4 昭和時代 「1989年」の出来事。昭和という時代の終わり。		
5 近代という時代 近代以前。近代化とは（資本主義、社会主義、個人主義、合理化、民主化etc.）		
6 1970年代末という時代 教育・家庭・子ども、街。「1983年」の出来事		
7 住まいの生活文化 住生活の歴史と考え方。間取りの変化。理想の住まいとは。		
8 生活記録としての漫画 「サザエさん」家の生活文化史～敗戦から高度経済成長の中の生活記録～ 家族マンガの系譜		
9 近代史を捉えなおす～映画と近現代① ベトナム映画「フルメタルジャケット」「地獄の黙示録」「プラトーン」		
10 近代史を捉えなおす～映画と近現代② 冷戦、キューバ危機。「博士の異常な愛情」		
11 近代史を捉えなおす～映画と近現代③		

チャップリン「モダンタイムス」、「独裁者」、「殺人狂時代」。映画の誕生と潮流。

12 沖縄の歴史と文化

沖縄の言語、歴史、沖縄戦、返還について。その他、北方領土問題の経緯など。

13 女性と子ども

ジェンダー。「子ども」とは

14 ポピュラー文化と生活

流行歌から時代さぐる（歌詞の主題分析）。

日本人の生活時間の変化（テレビ番組の内容の変化の分析）

15 メディアリテラシー

現代のコミュニケーション

報道と捏造

[使用テキスト・参考文献]

高齢者の生活史事典

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

試験

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 児童福祉論	授業の種類 講義	授業担当者 野村 明洋																																																									
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修																																																								
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>児童福祉について、基礎的並びに専門的に重要な点について学んでいく。具体的には、児童福祉の理念・目的・定義・子どもという時期の意義とその年齢・範囲、子どもの権利・義務・責任、児童福祉にかかわる制度とサービスの体系子育てに関する私的責任・社会的責任・公的責任、子育て支援・次世代育成支援などについてふれる。単なる知識は、テキストに述べられているので、本講義では、具体的事例を資料で紹介しながら、児童福祉の現状と課題について学んでいく。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>児童福祉に関する法とサービス体系をふまえて現代社会の中で起きている様々な児童問題やその社会的背景について、各自が現状を把握し考察できる内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>現代社会における児童福祉の理念と意義について理解するとともに児童福祉の社会的背景、展開サービスの社会的意味と現状についての理解も深める。</p>																																																											
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業内容]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 35%;">オリエンテーション 変化した子育て環境</td> <td style="width: 35%;">聴講についての注意事項・評価の説明 家族形態の変遷と子どもの問題</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>児童福祉とは何か 児童福祉の基本原理・対象</td> <td>児童福祉の意義について、子どものウェルビーイングに焦点をあて考察する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現代社会と児童・家庭</td> <td>家庭の意義と役割の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>児童福祉制度での家庭</td> <td>地域社会の変容と家庭機能の変容</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>児童福祉の歴史的展開</td> <td>児童観の変遷を軸に、日本と欧米の児童福祉の歴史を概観する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>児童福祉の思想・歴史</td> <td>同上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>児童福祉の法体系と実施体制</td> <td>児童福祉法を中心に、法律的な枠組みの全体像を概観、行政機関など実施体制について学習する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>子どもを守る組織とは－児童福祉機関の機能と役割</td> <td>児童相談所をはじめ、市区町村や家庭裁判所などがどのような働きをしているか学習する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>要保護児童施策① 乳児院・児童養護施設</td> <td>施設養護について、具体的な事例に基づいて考察する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>要保護児童施策② 里親制度について</td> <td>家庭的養護について、具体的な事例に基づいて考察する 〃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>少年非行とその対応</td> <td>少年非行と福祉の措置、少年保護手続、児童自立支援施設、少年院について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>母子保健とドメスティック・バイオレンス</td> <td>母子健康手帳、健康診査など母子保健施策 ドメスティック・バイオレンスとその対応</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ひとり親家庭の福祉</td> <td>母子及び寡婦福祉法、母子福祉施設について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>児童虐待の現状と課題</td> <td>虐待の現状、虐待対策の取り組みと今後の課題</td> <td></td> </tr> </table>				1	オリエンテーション 変化した子育て環境	聴講についての注意事項・評価の説明 家族形態の変遷と子どもの問題		2	児童福祉とは何か 児童福祉の基本原理・対象	児童福祉の意義について、子どものウェルビーイングに焦点をあて考察する		3	現代社会と児童・家庭	家庭の意義と役割の理解		4	児童福祉制度での家庭	地域社会の変容と家庭機能の変容		5	児童福祉の歴史的展開	児童観の変遷を軸に、日本と欧米の児童福祉の歴史を概観する		6	児童福祉の思想・歴史	同上		7	児童福祉の法体系と実施体制	児童福祉法を中心に、法律的な枠組みの全体像を概観、行政機関など実施体制について学習する		8	子どもを守る組織とは－児童福祉機関の機能と役割	児童相談所をはじめ、市区町村や家庭裁判所などがどのような働きをしているか学習する。		9	要保護児童施策① 乳児院・児童養護施設	施設養護について、具体的な事例に基づいて考察する		10	要保護児童施策② 里親制度について	家庭的養護について、具体的な事例に基づいて考察する 〃		11	少年非行とその対応	少年非行と福祉の措置、少年保護手続、児童自立支援施設、少年院について		12	母子保健とドメスティック・バイオレンス	母子健康手帳、健康診査など母子保健施策 ドメスティック・バイオレンスとその対応		13	ひとり親家庭の福祉	母子及び寡婦福祉法、母子福祉施設について		14	児童虐待の現状と課題	虐待の現状、虐待対策の取り組みと今後の課題	
1	オリエンテーション 変化した子育て環境	聴講についての注意事項・評価の説明 家族形態の変遷と子どもの問題																																																									
2	児童福祉とは何か 児童福祉の基本原理・対象	児童福祉の意義について、子どものウェルビーイングに焦点をあて考察する																																																									
3	現代社会と児童・家庭	家庭の意義と役割の理解																																																									
4	児童福祉制度での家庭	地域社会の変容と家庭機能の変容																																																									
5	児童福祉の歴史的展開	児童観の変遷を軸に、日本と欧米の児童福祉の歴史を概観する																																																									
6	児童福祉の思想・歴史	同上																																																									
7	児童福祉の法体系と実施体制	児童福祉法を中心に、法律的な枠組みの全体像を概観、行政機関など実施体制について学習する																																																									
8	子どもを守る組織とは－児童福祉機関の機能と役割	児童相談所をはじめ、市区町村や家庭裁判所などがどのような働きをしているか学習する。																																																									
9	要保護児童施策① 乳児院・児童養護施設	施設養護について、具体的な事例に基づいて考察する																																																									
10	要保護児童施策② 里親制度について	家庭的養護について、具体的な事例に基づいて考察する 〃																																																									
11	少年非行とその対応	少年非行と福祉の措置、少年保護手続、児童自立支援施設、少年院について																																																									
12	母子保健とドメスティック・バイオレンス	母子健康手帳、健康診査など母子保健施策 ドメスティック・バイオレンスとその対応																																																									
13	ひとり親家庭の福祉	母子及び寡婦福祉法、母子福祉施設について																																																									
14	児童虐待の現状と課題	虐待の現状、虐待対策の取り組みと今後の課題																																																									

<p>15 児童福祉の課題</p>	<p>施設サービス、民間活用、国際化等の面から児童福祉の課題を整理。テストの詳細について連絡。</p>
<p>[使用テキスト・参考文献] 新・社会福祉士養成講座 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] 試験</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p>	<p>保育士として、児童福祉施設に勤務している。</p>

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 情報	授業の種類 演習	授業担当者 板倉紀代子	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人情報扱い方や情報の共有、管理の仕方を理解するとともに、その実践力としてパソコンの操作について学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実際にパソコンを用い、基本的な操作から応用まで個人の習熟度に応じ、文章や図形また表等の作成を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>個人のパソコン技術の向上と情報管理の徹底を目標とする</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本操作 ブラインドタッチ、記号の入力 USBメモリーについて 2 複文節の入力 ワード入力の特徴の説明 3 保存の仕方 書式のコピーや貼り付け 4 ビジネス文書作成 箇条書き、段落、割り付け 5 ビジネス文書作成 タブ 日付やビジネス文書のマナー説明 6 クリップアート 7 罫線の基礎 8 罫線の応用 セル 行や列の挿入、削除 9 罫線の応用 セルの移動 10 罫線の応用 いろいろな図形の作成 11 実習問題の作成 12 図形 簡単な地図 13 試験範囲の説明 14 ビジネス文書・作表 写真の挿入（明るさ、コントラスト） 15 写真編集 絵葉書作成 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>作成する文章等をその都度提示</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>試験</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本 I	授業の種類 講義	授業担当者 石岡 周平	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護の意義と役割、エン門製について介護の歴史を通して理解する。介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションや ICF、介護の倫理を通して理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士の社会的役割に対する理解を促すために先駆的な介護現場の実践を取り入れ、利用者の自立に向けた介護に関わる概念や考え方を教示する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護福祉士を取り巻く状況や背景、また社会的役割が理解できる利用者の主体性や自立支援の重要性を ICF やリハビリテーションの意義と結び付けて考えることが出来る。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士を取り巻く環境 2. 介護問題の背景 3. 少子高齢化、家族機能の変化 4. 介護の社会化、高齢者虐待 5. 介護ニーズの変化 6. 介護福祉士の役割と機能 7. 介護福祉士の定義と義務 8. 介護福祉士の養成、専門職集団の役割 9. 尊厳を支える介護 10. QOLの考え方 11. ノーマライゼーションの実現 12. ノーマライゼーションの実現 13. 利用者主体 14. 利用者主体の実現 15. 介護の歴史・まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座 4「介護福祉の基本Ⅱ」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 試験</p>	
<p>実務経験のある教員による授業</p>		<p>介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 東 喜恵子	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護の意義と役割、エン門製について介護の歴史を通して理解する。介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理を通して理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士の社会的役割に対する理解を促すために先駆的な介護現場の実践を取り入れ、利用者の自立に向けた介護に関わる概念や考え方を教示する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護福祉士を取り巻く状況や背景、また社会的役割が理解できる利用者の主体性や自立支援の重要性をICFやリハビリテーションの意義と結び付けて考えることが出来る。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自立に向けた介護 2. 自立の考え方、自己決定 3. 自立支援の具体例 4. 個別ケアの考え方 5. 個別ケアの具体的展開 6. ICFの考え方 7. 介護におけるICFの捉え方 8. ICFの視点に基づくアセスメント 9. リハビリテーションの考え方 10. リハビリテーションの実際 11. 病院、施設におけるリハビリテーション 12. 在宅におけるリハビリテーション 13. 介護予防 14. リハビリテーション専門職との連携 15. 事例演習 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅲ		授業の種類 講義		授業担当者 森田 健一	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人を「生活する人」として受けとめ、一人ひとりの利用者の生き方（個別性）を大切にすることを学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 生活を支える介護、自立支援、個別化について、他の教育内容と関連づけるとともに実習体験等を事例として取り上げ、介護の多様性を掘り下げ、これまで学習した介護に関わる理論が深められるようにする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護を必要とする人の個別性や多様性、複雑性を理解する。ケアマネジメント、ケアプランの流れとしくみを通し、生活の場の特性や連携のあり方について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 介護を必要とする人の理解① 2. 介護を必要とする人の理解② 3. 人間の多様性、複雑性の理解① 4. 人間の多様性、複雑性の理解② 5. 高齢者の暮らしの実際① 6. 高齢者の暮らしの実際② 7. 高齢者の健康、生活のリズム 8. 生活文化、家族世帯、すまい 9. 高齢者の就労雇用収入、生計 10. 社会活動、余暇活動 11. 障がいのある人のくらしの理解① 12. 障がいのある人のくらしの理解② 13. 障がいのある人の生活ニーズ① 14. 障がいのある人の生活ニーズ② 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 試験		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務している。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅳ		授業の種類 講義		授業担当者 石岡 周平	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人を「生活する人」として受けとめ、一人ひとりの利用者の生き方（個別性）を大切にすることを学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 生活を支える介護、自立支援、個別化について、他の教育内容と関連づけるとともに実習体験等を事例として取り上げ、介護の多様性を掘り下げ、これまで学習した介護に関わる理論が深められるようにする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護を必要とする人の個別性や多様性、複雑性を理解する。ケアマネジメント、ケアプランの流れとしくみを通し、生活の場の特性や連携のあり方について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 障がいのある人の生活を支える基盤（制度）① 2. 障がいのある人の生活を支える基盤（制度）② 3. 介護を必要とする人の生活環境の理解① 4. 介護を必要とする人の生活環境の理解② 5. 介護を必要とする人の家族、地域、社会① 6. 介護を必要とする人の家族、地域、社会② 7. 介護サービスの概要① 8. 介護サービスの概要② 9. ケアプランとケアマネジメントのしくみ① 10. ケアプランとケアマネジメントのしくみ② 11. 介護保険サービスの種類① 12. 介護保険サービスの種類② 13. 介護サービス提供の場の特性① 14. 介護サービス提供の場の特性② 15. 生活障害の理解と生活ニーズ					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 試験		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅴ		授業の種類 講義		授業担当者 森田 健一	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 利用者が安心して生活が営める生活環境を整え、危機管理や関係職種間の連携のあり方を理解する。また介護従事者の健康管理についても学び、安全、安心できる介護の実現を目指す。					
[授業全体の内容の概要] 権利擁護、プライバシーの保護、リスクマネジメント、事故防止、安全対策、感染対策等についての具体的方法を示し、利用者の安全、安心の確保のあり方を学ばせる。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため介護の場における事故防止、安全対策、感染予防について理解するとともに介護従事者としての心身の健康管理についても知識を得る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数					
1. 介護実践における連携 2. 介護実践における他職種との連携の意義と目的 3. 他の福祉職種 4. 保健医療職種の機能と役割 5. 地域連携の意義 6. 地域連携の目的 7. 地域住民、ボランティア等のインフォーマルサービスの機能と役割 8. 地域住民、ボランティア等のインフォーマルサービスの役割、連携 9. 地域包括支援センター 10. 市町村の役割 11. 都道府県の役割 12. 介護従事者の倫理 13. 介護実践の場で求められる倫理 14. 利用者の人権、プライバシーの保護 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 試験		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務している。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅵ		授業の種類 講義		授業担当者 石岡 周平	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 利用者が安心して生活が営める生活環境を整え、危機管理や関係職種間の連携のあり方を理解する。また介護従事者の健康管理についても学び、安全、安心できる介護の実現を目指す。					
[授業全体の内容の概要] 権利擁護、プライバシーの保護、リスクマネジメント、事故防止、安全対策、感染対策等についての具体的方法を示し、利用者の安全、安心の確保のあり方を学ばせる。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため介護の場における事故防止、安全対策、感染予防について理解するとともに介護従事者としての心身の健康管理についても知識を得る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 虐待 2. プライバシーの保護 3. 個人情報の保護 4. 介護における安全の確保（観察、予測、分析） 5. 事故防止・安全対策（セーフティマネジメント） 6. 事故防止・安全対策（転倒、転落防止、骨折予防） 7. 緊急時の対応、システム 8. 防火防災対策、利用者の生活の安全 9. 感染予防の基礎知識と技術 10. 感染管理 11. 衛生管理 12. 介護従事者の心の健康管理（ストレス、バーンアウト等） 13. 介護従事者のからだの健康管理（感染予防と対策、腰痛予防と対策他） 14. 利用者の人権、プライバシーの保護 15. 労働安全、安心して働ける環境づくり					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 試験		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術の基本		授業の種類 講義		授業担当者 滝北 利彦	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護現場で必要とされる人間関係のための「コミュニケーション技術」を理解することにより、利用者に関わる人たちと利用者の関係調整能力を習得する。					
[授業全体の内容の概要] コミュニケーション基本である信頼関係の成立させるための技法とコミュニケーションの様々な実践方法を記録の書き方や報告、会議の方法を実践を通じて学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護過程を通して、障害の程度や種別による生活支障の状況を把握することによって適切なコミュニケーションの実践が可能となる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数 1 介護におけるコミュニケーションの基本 2 介護場面における利用者・家族との関係づくり 3 話を聴く技法 4 納得と同意を得る技法 5 相談、助言、指導 6 意欲を引き出す技法 7 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション（感覚運動機能低下） 8 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション（認知知覚機能低下） 9 介護におけるチームコミュニケーション（記録の意義。目的） 10 介護におけるチームコミュニケーション（記録の種類） 11 介護におけるチームコミュニケーション（記録の方法・留意点） 12 介護におけるチームコミュニケーション（記録の共有化。管理） 13 情報通信技術（IT）の活用と留意点 14 報告のあり方 15 会議のあり方					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 5 「コミュニケーション技術」			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 試験		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 手話		授業の種類 演習		授業担当者 北岡 真美																																														
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修																																															
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>手話、ろう者について理解を深める。[授業全体の内容の概要]</p> <p>実技を中心にし、会話をしながら自然に手話を習得するように進める。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>手話での簡単な日常会話ができる。</p>																																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">1</td> <td style="width: 30%;">名前</td> <td>漢字の形・物の特徴・歴史上の人物から由来した手話</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食べ物</td> <td>身近な手話単語・好き嫌いの表現方法</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>食べ物2</td> <td>短文を表現してみる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>家族</td> <td>家族構成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>趣味</td> <td>名詞・動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自己紹介</td> <td>学んだ手話を表現してみる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ろう者の生活</td> <td>DVDを見てろう者の生活を知る</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ろう者の生活と手話通訳の仕事</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>都道府県</td> <td>住所・出身地の表現</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>数</td> <td>年齢・時間など数に関する表現</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>疑問詞</td> <td>疑問詞の表現を学び、会話してみる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>講演</td> <td>ろう者を招き手話での講演</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学んだ手話を使い会話</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総復習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>試験</td> <td></td> </tr> </table>						1	名前	漢字の形・物の特徴・歴史上の人物から由来した手話	2	食べ物	身近な手話単語・好き嫌いの表現方法	3	食べ物2	短文を表現してみる	4	家族	家族構成	5	趣味	名詞・動詞	6	自己紹介	学んだ手話を表現してみる	7	ろう者の生活	DVDを見てろう者の生活を知る	8	ろう者の生活と手話通訳の仕事		9	都道府県	住所・出身地の表現	10	数	年齢・時間など数に関する表現	11	疑問詞	疑問詞の表現を学び、会話してみる	12	講演	ろう者を招き手話での講演	13	学んだ手話を使い会話		14	総復習		15	試験	
1	名前	漢字の形・物の特徴・歴史上の人物から由来した手話																																																
2	食べ物	身近な手話単語・好き嫌いの表現方法																																																
3	食べ物2	短文を表現してみる																																																
4	家族	家族構成																																																
5	趣味	名詞・動詞																																																
6	自己紹介	学んだ手話を表現してみる																																																
7	ろう者の生活	DVDを見てろう者の生活を知る																																																
8	ろう者の生活と手話通訳の仕事																																																	
9	都道府県	住所・出身地の表現																																																
10	数	年齢・時間など数に関する表現																																																
11	疑問詞	疑問詞の表現を学び、会話してみる																																																
12	講演	ろう者を招き手話での講演																																																
13	学んだ手話を使い会話																																																	
14	総復習																																																	
15	試験																																																	
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]																																															
特になし			(試験やレポートの評価基準など) 試験																																															

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 点字		授業の種類 演習		授業担当者 伊藤 道夫	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>初歩の点訳の習得とガイド法の習得を通して視覚障害者への理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>点字（単語の書きと短文の点訳）、ガイド法の習得</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>視覚障害者に接するとき、基本的な知識と援助・介護が出来るようにする。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 視覚障害者への理解と介助の課題・点字の歴史 3 コミュニケーション、点字器・用紙・鉄筆の使い方、打ち方 4 点字の表記法（清音）と練習 5 点字の表記法（清音）と練習2 6 点字の表記法（濁音・半濁音・拗音・拗濁音・拗半濁音・促音）と単語練習1 7 点字の表記法（長音）と練習・単語練習2 8 点字の表記法（数字・英文字）と練習・単語練習3 9 点字の表記法（難読語）と練習 10 小テスト、ビデオ「朝子さんの一日」 11 点字の表記法（分かち書きと自立語・付属語）と練習 12 点訳練習（1） 13 点訳練習（2） 14 ガイド法の実際、名刺・タックテーパーラベルの作成 15 まとめ（講義を終わるにあたって） 					
[使用テキスト・参考文献] 「点字のしおり」点字図書館			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席・提出物、試験による総合評価		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害者への支援		授業の種類 講義		授業担当者 忠澤 智己	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害のある人の意欲や主体的な行動を支え地域で安心して暮らしていけるように、本人の立場に立った生活支援の視点の持ち方についてディスカッションや疑似体験等を通して、繰り返し学習できるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>障害のある人の特性をふまえ、自立にむけた支援を行うために地域におけるサポート体制や多職種協働のあり方、家族の支援についての知識も得る。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				コマ数	
<ol style="list-style-type: none"> 1 障害のある人に対する介護 障害のある人に対する介護の基本的視点 2 自己決定・ケアワークのなかのエンパワメント 3 権利擁護 4 基本的視点に基づいた個別支援 5 生活ニーズの把握・基本的視点に基づいたニーズとアセスメント 6 介護過程の展開に向けて 7 社会資源の利用と開発 福祉用具と自立 8 居宅支援と自立 9 社会活動と自立 10 家族への支援 11 家族の状態の把握と介護負担の軽減 12 連携と協働 ～地域におけるサポート体制の確立（構築）に向けて～ 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携（チームアプローチ） 13 地域に置けるサポート体制 行政・関係機関との連携 14 地域自立支援協議会との連携 15 インフォーマル支援ネットワーク 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 13「障害の理解」			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験		
実務経験のある教員による授業			社会福祉士として、介護福祉施設に勤務している。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 住環境と福祉用具	授業の種類 演習	授業担当者 田中 洸平
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年
		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>どのような状態であっても、その人の自立を尊重し潜在能力を引き出すには、居住の整備は大きな課題である。生活の場としての居住環境整備の意義、方法を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>ノーマライゼーションの実現の場としての居住のあり方についてハード、ソフトの両面から見直す視点を養う内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>住宅は命を守る器である。住まいが人生のあらゆるステージに対応することが求められていることを理解し、特に介護が必要となった場合の生活の場を住宅のみならず行動する場まで広げて考えられるようにする。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活の理解 2 生活形成のプロセス 3 生活経営 4 自立にむけた居住環境の整備 5 居住環境整備の意義と目的 6 生活空間と介護 7 住みなれた地域での生活保障と福祉用具 8 居住環境のアセスメント 9 安全で住み心地よい生活の場づくりの工夫と福祉用具 10 住宅改修 11 住宅のバリアフリー化 12 ユニバーサルデザイン 13 施設等での集住の場合の工夫 14 ユニットケア 居室の個室化 15 ICFの視点にもとづく利用者の全対象のアセスメント 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新介護福祉士養成講座 「6 生活支援技術Ⅰ」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）試験</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p>		<p>福祉住環境系の設計・販売会社に勤務している。</p>

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅰ	授業の種類 演習	授業担当者 三浦 玲子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年
必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] 対象者の生活上の課題を考え、解決に向けた計画の作成と評価から援助者が持つべき資質を高めて行く。		
[授業全体の内容の概要] 講義・演習を通じて考察力を高め、解決のプロセスを重視した授業展開を行う。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1年前期は実習施設を想定した利用者について援助およびセルフケアの自己の考察ができる		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
コマ数	指導項目	具体的な内容
1	「介護過程とは①」	～意義と目的、2年間を学びの課程
2	「介護過程とは②」	～福祉施設における生活者と援助者の役割
3	「対象者の理解」	～障害をもって生活すること（生活上の課題とは）
		事例展開
4	「高齢者の住まい」	～環境と個別性
		事例展開
5	「介護計画の実践」	～提供される福祉サービスから介護計画を検証する（福祉施設で行われる介護を学ぶ）
6	「生活支援の観点から」	～福祉サービスがどのように提供されるのか
7	「利用者への援助の視点」	～利用者ニーズの理解
8	「アセスメントとは何か」	～利用者情報のとり方とアセスメントシートの見方 (アセスメントシート①フェイスシート)
9	「アセスメントとは何か」	～利用者身体・心理の理解と記述例 (アセスメントシート②項目記入)
10	「利用者面接法」	～傾聴法の実際場面を学ぶ (視覚教材使用)
11	「利用者との関わりから」	～施設見学から（市内の障害者施設見学を終えての利用者理解をレポート発表と教員によるコメント）
12	「実習先施設の利用者①」	～高齢者施設を中心に、認知症および要介護者への接し方から施設および在宅生活者の介護計画とは
13	「実習先施設の利用者②」	～知的障害と身体障害・救護施設での介護計画と障害の理解を中心に
14	「必要とされるニーズとは」	～グループワークでの事例発表（各グループ1事例選択）

① 認知症、②通所介護利用の在宅高齢者、③知的障害者、④身体障害者（重複障害）⑤特別養護老人ホーム⑥救護施設

ファシリテーター（教員3名参加）

15 「グループワークのまとめ」～各グループ発表、実習前のイメージと考察力を求める
参加教員よりコメント

[使用テキスト・参考文献]

新・介護福祉士養成講座（中央法規）
「9 介護過程」

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
レポート

実務経験のある教員による授業

介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 三浦 玲子																																																	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修																																																		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実習体験を通じた、実践的な介護過程の作成を行うことにより、生活課題の解決方法へプロセスを学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実習を通じての体験を中心に介護計画を作成し、一連の過程を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>利用者個々の課題に応じた介護技法 (生活支援) の理解を求める。</p>																																																					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">コマ数</th> <th style="text-align: center;">指導項目</th> <th style="text-align: center;">具体的な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>「アセスメントの理解①」</td> <td>～情報収集の領域 (生活歴と個人情報保護) (情報提供同意に関する資料)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>「アセスメントの理解②」</td> <td>～生活領域の収集 (健康・理解・行動・ADL) (アセスメントシート)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>「介護計画の作成①」</td> <td>～アセスメントから生活ニーズを抽出する (アセスメントシート使用)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>「情報共有と尊厳の理解」</td> <td>～利用者の権利擁護と援助者の関わり</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>「ケア計画の立案①」</td> <td>～生活課題の理解と生活領域から見た計画作成法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>「ケア計画の立案②」</td> <td>～長期目標と短期目標の理解、目標を設定する意味</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>「ケア計画の立案③」</td> <td>～生活課題への対応方法 (5、6、7、アセスメントシート)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>「生活課題への支援①」</td> <td>～生活課題へアプローチ方法 (事例から)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td>「生活課題への支援②」</td> <td>～実習先の利用者を想定して (第一課程実習先を想定しての援助) (実習記録)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td>「計画の実施」</td> <td>～自らのサービス提供とセルフケアを考える。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td>「ICFの取り組み」</td> <td>～生活機能の要素と個人因子と環境因子のとらえ方</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td>「ICFの介護計画への活用」</td> <td>～利用者全体像の把握とポジティブな介護計画の策定</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td>「事例演習」</td> <td>～実習先施設の生活者を想定したグループ演習①</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">14</td> <td>「事例演習」</td> <td>～実習先施設の生活者を想定したグループ演習②</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">15</td> <td colspan="2">事例演習まとめ～実習巡回教員との演習のコメント 事例演習でのプレゼンテーション法を学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>						コマ数	指導項目	具体的な内容	1	「アセスメントの理解①」	～情報収集の領域 (生活歴と個人情報保護) (情報提供同意に関する資料)	2	「アセスメントの理解②」	～生活領域の収集 (健康・理解・行動・ADL) (アセスメントシート)	3	「介護計画の作成①」	～アセスメントから生活ニーズを抽出する (アセスメントシート使用)	4	「情報共有と尊厳の理解」	～利用者の権利擁護と援助者の関わり	5	「ケア計画の立案①」	～生活課題の理解と生活領域から見た計画作成法	6	「ケア計画の立案②」	～長期目標と短期目標の理解、目標を設定する意味	7	「ケア計画の立案③」	～生活課題への対応方法 (5、6、7、アセスメントシート)	8	「生活課題への支援①」	～生活課題へアプローチ方法 (事例から)	9	「生活課題への支援②」	～実習先の利用者を想定して (第一課程実習先を想定しての援助) (実習記録)	10	「計画の実施」	～自らのサービス提供とセルフケアを考える。	11	「ICFの取り組み」	～生活機能の要素と個人因子と環境因子のとらえ方	12	「ICFの介護計画への活用」	～利用者全体像の把握とポジティブな介護計画の策定	13	「事例演習」	～実習先施設の生活者を想定したグループ演習①	14	「事例演習」	～実習先施設の生活者を想定したグループ演習②	15	事例演習まとめ～実習巡回教員との演習のコメント 事例演習でのプレゼンテーション法を学ぶ。	
コマ数	指導項目	具体的な内容																																																			
1	「アセスメントの理解①」	～情報収集の領域 (生活歴と個人情報保護) (情報提供同意に関する資料)																																																			
2	「アセスメントの理解②」	～生活領域の収集 (健康・理解・行動・ADL) (アセスメントシート)																																																			
3	「介護計画の作成①」	～アセスメントから生活ニーズを抽出する (アセスメントシート使用)																																																			
4	「情報共有と尊厳の理解」	～利用者の権利擁護と援助者の関わり																																																			
5	「ケア計画の立案①」	～生活課題の理解と生活領域から見た計画作成法																																																			
6	「ケア計画の立案②」	～長期目標と短期目標の理解、目標を設定する意味																																																			
7	「ケア計画の立案③」	～生活課題への対応方法 (5、6、7、アセスメントシート)																																																			
8	「生活課題への支援①」	～生活課題へアプローチ方法 (事例から)																																																			
9	「生活課題への支援②」	～実習先の利用者を想定して (第一課程実習先を想定しての援助) (実習記録)																																																			
10	「計画の実施」	～自らのサービス提供とセルフケアを考える。																																																			
11	「ICFの取り組み」	～生活機能の要素と個人因子と環境因子のとらえ方																																																			
12	「ICFの介護計画への活用」	～利用者全体像の把握とポジティブな介護計画の策定																																																			
13	「事例演習」	～実習先施設の生活者を想定したグループ演習①																																																			
14	「事例演習」	～実習先施設の生活者を想定したグループ演習②																																																			
15	事例演習まとめ～実習巡回教員との演習のコメント 事例演習でのプレゼンテーション法を学ぶ。																																																				
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 (中央法規) 「9 介護課程」			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 演習レポート																																																		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。																																																		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 東 喜恵子
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>ケアプランの作成を通じて、チームアプローチの理解を深めケアマネジメントの実際を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>演習および実際の福祉現場の体験者の話を含めた演習とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>施設・在宅プランの作成し提出する。模擬ケアカンファレンスでの参加度を参考にする</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「アセスメント表の実際」～アセスメント項目の理解 2 「アセスメント項目の理解」～アセスメント様式の説明・施設版 3 「事例演習A①」～ケアマネジメント実践マニュアルから特養事例 4 「事例演習A②」～説明での事例を記述する 5 「事例演習A③」～特養事例の概要と施設の機能 6 「事例演習A④」～説明までの事例を記述する 7 「事例演習A⑤」～作成した計画を模擬カンファレンスを行う。 8 「事例演習A⑥」～計画の作成による施設サービスの理解とチームアプローチの実際 9 「介護実践現場からの報告」～介護支援専門員の実務から 10 「介護実践現場からの報告」～学生からの意見と教員のコメント 11 「事例演習B①」～在宅事例を作成する。事例作成のポイント 12 「事例演習B②」～事例の概要説明をアセスメントシートに記入する 13 「事例演習B③」～居宅サービスの実際と介護支援専門員の役割 14 「事例演習B④」～生活課題の抽出と支援方法の選択 15 「事例演習B⑤」～作成した計画を模擬カンファレンスを行う。役割の分担 16 「事例演習B⑥」～作成した計画を模擬カンファレンスを行う。役割の分担 17 「事例演習B⑦」～事例発表、グループ間の質疑応答、教員コメント 18 「事例演習B⑧」～事例発表、グループ間の質疑応答、教員コメント 全体のまとめ、カンファレンスの意義・修正 19 「事例演習B⑧」～事例発表、グループ間の質疑応答、教員コメント 全体のまとめ、カンファレンスの意義・修正 20 「介護保険制度～」介護保険制度の実際、施設サービス 21 「介護保険制度～」介護保険制度の実際、在宅サービス 				

<p>22 「介護保険制度」～介護予防サービス</p> <p>23 「介護保険制度」～地域包括センター</p> <p>24 「高齢者の生活」～介護保険以外の高齢者のマネジメント</p> <p>25 「自立支援法」～自立支援法の実際、成功事例の法人のあり方</p> <p>26 「自立支援法」～社会生活への参加、就労支援のあり方</p> <p>27 「人間の理解」～社会福祉援助とは、生活支援から考える。</p> <p>28 「困難ケースの対応」～高齢者虐待事例から検証する。</p> <p>29 「資格者の倫理」～介護福祉士がもつべき倫理観</p> <p>30 「介護過程のまとめ」～総論</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座</p> <p>「9 介護過程」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>試験</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p>	<p>介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅳ		授業の種類 演習		授業担当者 東 喜恵子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>2回の実習を終えて、各自の利用者像を選択し介護計画を作成し、グループの評価を行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>前半は個人による作成、後半は作成した計画をグループごとに検討し修正を加える</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>計画の作成から評価・修正までを目標とする。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>				
コマ数	指導項目	具体的な内容		
1	「事例演習①」	～認知症ケア事例からの生活支援 グループホーム・特養実習経験者の学生コメントを例に		
2	「事例演習②」	～認知症ケア事例からの生活支援 グループホーム・特養演習の作成		
3	「事例演習③」	～在宅生活者ケア事例からの生活支援 小規模多機能型・通所介護施設実習経験者の学生コメントを例に		
4	「事例演習④」	～在宅生活者ケア事例からの生活支援 小規模多機能型・通所介護施設演習の作成		
5	「事例演習⑤」	～障害者施設・救護施設ケア事例からの生活支援 障害者・救護施設実習経験者の学生コメントを例に		
6	「事例演習⑥」	～障害者施設・救護施設ケア事例からの生活支援 障害者・救護施設演習の作成		
7	「実習先演習」	～個人情報に留意した介護計画を個人で作成する。 アセスメントの記入と生活課題の抽出		
8	「実習先演習」	～個人情報に留意した介護計画を個人で作成する。 生活課題に基づいた援助目標と生活支援を記述する		
9	「実習先演習」	～個人情報に留意した介護計画を個人で作成する。 自ら提供できるサービス計画の作成		
10	「演習応用①」	～グループ演習から、各グループで事例を抽出し修正を加える。 ケアカンファレンスの方法を教授する		

<p>11 「演習応用②」～グループ演習から、各グループで事例を抽出し修正を加える。 修正の意義・目的</p> <p>12 「演習応用③」～グループ演習から、各グループで事例を抽出し修正を加える。 チームアプローチとは何か</p> <p>13 「演習発表」～グループによる役割の決定と発表まとめ 福祉施設での職員間の役割の理解</p> <p>14 「グループ発表」～各グループごとの発表と質疑応答 教員によるコメント</p> <p>15 「グループ発表」～各グループごとの発表と質疑応答 教員によるコメント</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座（中央法規） 「9 介護過程」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） グループ演習をレポートにまとめる</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p>	<p>介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。</p>

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅰ	授業の種類 演習	授業担当者 三浦 玲子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年
必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] 実習前指導を中心に介護実習先の理解（人間理解とサービス提供の場）を中心に、基礎的学習を行う。		
[授業全体の内容の概要]		
[授業修了時の達成課題（到達目標）]		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
コマ数	指導項目	具体的な内容
1	「介護実習とは①」	～2年間の実習課程の理解を深める
2	「介護実習とは②」	～実習先で出会う利用者の理解。介護福祉士の職場
3	「実習施設の理解①」	～高齢者施設、特別養護老人ホーム、老人保健施設、養護老人ホームの生活 (視覚教材)
4	「実習施設の理解②」	～在宅系施設を中心に通所介護、通所リハビリ、グループホーム、小規模多機能型施設の利用者とそこで行われるサービスとは (視覚教材)
5	「実習施設の理解③」	～障害者施設の理解。入所サービスと在宅サービス (視覚教材)
6	「生活者の理解」	～障害をもって生活する人の理解と援助者が持つ人権の尊重
7	「チームアプローチ」	～介護福祉士が業務する職場での他職種協働とは
8	「記録の重要性」	～職場での記録の意味と実習での記録方法
9	「実習記録①」	～施設の概要の理解、行事・日課から利用者の生活を理解する (実習記録用紙)
10	「実習記録②」	～実習目標の作成と実習先の説明 (実習記録用紙)
11	「実習記録③」	～学生としての記録方法（1） (実習記録用紙)
12	「実習記録④」	～学生としての記録方法（2） (実習記録用紙)
13	「実習先の理解」	～高齢者・障害者の法制度の理解 (パンフレット)
14	「実習のマナー」	～社会人としてのマナー、利用者との関わり (実習の手引き)
15	「実習オリエンテーション」	～巡回教員との面談

<p>[使用テキスト・参考文献] 新介護福祉士養成講座 「10 介護総合演習・介護実習」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p>	<p>介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。</p>

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 三浦 玲子																																																	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修																																																	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>基礎実習Ⅰ・Ⅱの体験から利用者理解を深め、考察力を高め介護福祉士の役割の理解に努める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1年次の介護実習Ⅰ区分での実習の目的を中心に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>実習終了時に人間理解と生活支援の目的が理解できること。</p>																																																					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">コマ数</th> <th style="text-align: center;">指導項目</th> <th style="text-align: center;">具体的な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>「実習にあたり」～実習前の振り返り</td> <td style="text-align: right;">(実習の手引き・記録)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>「実習にあたり」～実習前の確認事項</td> <td style="text-align: right;">(実習の手引き・記録)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>「実習を終えて」～グループワークでの発表、ディスカッションで気づき</td> <td style="text-align: right;">(レポート作成)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>「施設実習・応用課程にむけて」～意義・目的の説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>「生活支援に向けた介護」～利用者の生活課題を考えた介護の実践（地域事例）</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>「事例演習」～老人保健施設（在宅復帰モデル例から）での他職種協働アプローチ</td> <td style="text-align: right;">(実習施設想定)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>「事例演習」～特別養護老人ホーム（認知症モデル例から）での個別介護</td> <td style="text-align: right;">(実習施設想定)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>「事例演習」～知的障害者での就労支援モデルへの支援ケース（実習施設想定）</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td>「介護過程の準備」～実習先でのアセスメントと個人情報のあり方</td> <td style="text-align: right;">(情報提供同意書)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td>「介護過程の展開」～学生の関わり方と利用者情報の取りかた（実習記録用紙）</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td>「介護過程の展開」～利用者への生活支援を実習記録に記述する。（実習記録用紙）</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td>「実習施設の理解」～施設実習Ⅱの説明、実習希望と自己の目的</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td>「実習課題の作成」～基礎実習の振り返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">14</td> <td>「実習の諸注意」～実習にあたり</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">15</td> <td>「実習オリエンテーション」～巡回教員との面談</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						コマ数	指導項目	具体的な内容	1	「実習にあたり」～実習前の振り返り	(実習の手引き・記録)	2	「実習にあたり」～実習前の確認事項	(実習の手引き・記録)	3	「実習を終えて」～グループワークでの発表、ディスカッションで気づき	(レポート作成)	4	「施設実習・応用課程にむけて」～意義・目的の説明		5	「生活支援に向けた介護」～利用者の生活課題を考えた介護の実践（地域事例）		6	「事例演習」～老人保健施設（在宅復帰モデル例から）での他職種協働アプローチ	(実習施設想定)	7	「事例演習」～特別養護老人ホーム（認知症モデル例から）での個別介護	(実習施設想定)	8	「事例演習」～知的障害者での就労支援モデルへの支援ケース（実習施設想定）		9	「介護過程の準備」～実習先でのアセスメントと個人情報のあり方	(情報提供同意書)	10	「介護過程の展開」～学生の関わり方と利用者情報の取りかた（実習記録用紙）		11	「介護過程の展開」～利用者への生活支援を実習記録に記述する。（実習記録用紙）		12	「実習施設の理解」～施設実習Ⅱの説明、実習希望と自己の目的		13	「実習課題の作成」～基礎実習の振り返り		14	「実習の諸注意」～実習にあたり		15	「実習オリエンテーション」～巡回教員との面談	
コマ数	指導項目	具体的な内容																																																			
1	「実習にあたり」～実習前の振り返り	(実習の手引き・記録)																																																			
2	「実習にあたり」～実習前の確認事項	(実習の手引き・記録)																																																			
3	「実習を終えて」～グループワークでの発表、ディスカッションで気づき	(レポート作成)																																																			
4	「施設実習・応用課程にむけて」～意義・目的の説明																																																				
5	「生活支援に向けた介護」～利用者の生活課題を考えた介護の実践（地域事例）																																																				
6	「事例演習」～老人保健施設（在宅復帰モデル例から）での他職種協働アプローチ	(実習施設想定)																																																			
7	「事例演習」～特別養護老人ホーム（認知症モデル例から）での個別介護	(実習施設想定)																																																			
8	「事例演習」～知的障害者での就労支援モデルへの支援ケース（実習施設想定）																																																				
9	「介護過程の準備」～実習先でのアセスメントと個人情報のあり方	(情報提供同意書)																																																			
10	「介護過程の展開」～学生の関わり方と利用者情報の取りかた（実習記録用紙）																																																				
11	「介護過程の展開」～利用者への生活支援を実習記録に記述する。（実習記録用紙）																																																				
12	「実習施設の理解」～施設実習Ⅱの説明、実習希望と自己の目的																																																				
13	「実習課題の作成」～基礎実習の振り返り																																																				
14	「実習の諸注意」～実習にあたり																																																				
15	「実習オリエンテーション」～巡回教員との面談																																																				
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]																																																		
新介護福祉士養成講座 「10介護総合演習・介護実習」			（試験やレポートの評価基準など） レポート																																																		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。																																																		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習Ⅲ	授業の種類 演習	授業担当者 三浦 玲子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年
必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] 介護計画作成から利用者に対する生活支援の理解を深め、生活課題から支援者のあるべき援助を考える。		
[授業全体の内容の概要] アセスメントの作成から計画作成、実施、評価過程までを教授する。個々の能力をグループワーク等で高めることを主眼とする。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] アセスメント表の作成から生活課題の抽出までを目標とする。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
コマ数	指導内容	具体的な内容
1	「介護過程の展開①」	～介護過程を行う意義と目的 (実習記録)
2	「介護過程の展開②」	～情報収集のためのアセスメント記入 (アセスメント記入)
3	「介護過程の展開③」	～アセスメントシートから生活課題を導き出す。 (課題分析表)
4	「実習目標の作成」	～最終段階実習のための自己課題の作成
5	「実習の注意事項」	～利用者への配慮と報告・連絡
6	「実習オリエンテーション」	～巡回教員との面談
7	「実習を終えて」	～生活者への支援とは
8	「介護過程研究①」	～利用者の生活支援家庭をケース報告にまとめる。
9	「介護過程研究②」	～利用者の生活支援家庭をケース報告にまとめる。 グループワークディスカッション
10	「介護過程研究③」	～利用者の生活支援家庭をケース報告にまとめる。 グループワークディスカッション
11	「介護過程報告①」	～自己のレポートをまとめ発表、教員よりコメント
12	「介護過程報告①」	～自己のレポートをまとめ発表、教員よりコメント
13	「介護過程報告①」	～自己のレポートをまとめ発表、教員よりコメント 全体の講評を教員より
14	「ケアプランの作成」	～自己の事例を施設ケアプランとしてまとめる。 施設職員の役割と他職種協働
15	「ケアプランの作成②」	～自己の事例を施設ケアプランとしてまとめる。 施設職員の役割と他職種協働

<p>[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 「10 介護総合演習・介護実習」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p>	<p>介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。</p>

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅳ		授業の種類 演習		授業担当者 三浦 玲子	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>ケアプランの作成から、高齢者・障害者の生活支援を考察し、介護福祉士としての生活支援の実際を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実習の経験を生かし、利用者へのプラン作成能力を高める。卒業後の知識力も養うためにより具体的な講義を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>在宅サービスや制度におけるプランの検証から実際に行われているサービスを理解する</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数	指導項目	具体的な内容			
1	「在宅サービスの実際①」	～訪問介護におけるサービス提供責任者の役割			
2	「在宅サービスの実際②」	～介護支援専門員と訪問介護の実際			
3	「在宅サービスの実際③」	～訪問介護（身体介護サービス）			
4	「在宅サービスの実際④」	～訪問介護計画とは			
5	「介護保険制度①」	～新しい介護としてのユニットケア（実習体験から）			
6	「介護保険制度②」	～小規模多機能型介護（実習体験から）			
7	「介護保険制度③」	～通所介護・リハビリ（実習体験から）			
8	「介護保険制度④」	～グループホーム（実習体験から）			
9	「自立支援法」	～生活介護と就労支援の実際			
10	「事例からプランの作成①」	～実践事例から自己作成を行う。			
11	「事例からプランの作成②」	～実践事例から自己作成を行う。			
12	「作成事例カンファレンス」	～グループワークでの説明と修正			
13	「作成事例カンファレンス」	～発表とコメント			
14	「作成事例カンファレンス」	～発表とコメント			
15	「卒業にあたり」				
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
新介護福祉士養成講座 「10介護総合演習・介護実習」			（試験やレポートの評価基準など） レポート		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解		授業の種類 講義		授業担当者 東 喜恵子	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>成長・発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響を理解し生活支援技術の根拠となる知識の習得を図る</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>老化に伴う心身の変化や日常生活に及ぼす影響、老年期に見られる家庭・地域での役割の変化や喪失体験、不安などを深く理解し、老化を受容する過程についても学ぶ</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間の成長と発達（発達とは） 2 人間の発達段階と発達課題 3 発達と個人差 4 老年期の発達と成熟（老化とは・老化と老年期） 5 老いから加齢へ 6 老年期の発達課題の留意点 7 老化に伴うところの変化と日常生活・老化が及ぼす心理的影響 8 老いの価値観・受容 9 高齢者のところの問題と精神障害 10 要介護による高齢者の心理 11 変化に伴うからだの変化と日常生活 <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響 ・老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響 ・高齢者の免疫機能の変化 12 感覚機能の変化と日常生活への影響 <ul style="list-style-type: none"> 咀嚼機能や消化機能の変化 13 運動機能の変化 <ul style="list-style-type: none"> 泌尿生殖機能の変化 14 老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響 15 記憶機能の変化（長期記憶、短期記憶）と認知機能の変化 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 「11 発達と老化の理解」			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 高齢者と健康	授業の種類 講義	授業担当者 小寺 まゆみ
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年
必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] 老化に関する身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する [授業全体の内容の概要] 高齢者に多い疾病とその症状の現れ方の特徴を高齢医療に関わる医療職から学び、医療職とどのように連携するかについて学生が理解できるようにする [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 加齢に伴う成熟の特徴と失われていく諸機能の特徴、それに伴う老年期の発達課題について理解できるようになる		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
コマ数		
1 高齢者と健康 高齢者の症状・疾患の特徴		
2 高齢者に多い症状・訴えとその留意点		
3 高齢者に多い病気とその留意点 生活習慣病…【三大生活習慣病】脳血管障害・がん・心疾患 【その他の生活習慣病】高血圧等		
4 骨・関節系の病気 歯・口腔の病気 目の病気		
5 耳の病気 皮膚の病気		
6 呼吸器の病気		
7 腎・泌尿器の病気		
8 脳・神経系疾患		
9 消化器系疾患		
10 循環器系疾患		
11 精神疾患		
12 介護保険の特定疾病		
13 高齢者に起こりやすい感染症		
14 保健医療職との連携 保健医療職とのチームケアの必要性		
15 保健医療職との連携のポイント		
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 「11 発達と老化の理解」		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解		授業の種類 講義		授業担当者 小寺 まゆみ	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症のある人の現状を理解する。 認知症の症状の特徴を学び、それによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。					
[授業全体の内容の概要] 認知症の有る人を理解するために、その置かれている状況についてと認知症によって人間関係や生活環境、社会との関係に支障が出ることを学生が理解できる内容とするため事例を多く用いる					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 認知症の病気やその特徴、中核症状を理解し、そこから生じる日常生活への影響がイメージできるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 認知症の人の生きる世界 2 認知症を取り巻く状況－認知症ケアのこれまでとこれから 3 認知症ケアの歴史 4 認知症ケアの理念と視点 5 認知症の人の医学的側面から見た認知症の基礎 6 認知症による障害 7 認知症の診断と治療、間違えられやすい症状 8 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴 9 若年性認知症 病院で行われる検査と治療の実際 10 認知症の人の行動・心理状態 11 生活からみた、認知症の人の心理的理解 12 認知症の人の生活理解・認知機能の変化が生活に及ぼす影響 13 環境の力 14 生活を続ける(1) 15 生活を続ける(2)					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 「12 認知症の理解」			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 試験		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の支援		授業の種類 講義		授業担当者 三浦玲子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間	配当学年・時期 2年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 認知症のある人の意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。					
[授業全体の内容の概要] 認知症のある人の言動から学ぶ姿勢を持ち続けることの必要性や、地域で暮らす認知症のある人やその介護者、地域ネットワークに実際に数多く接することができるようにする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 認知症のある人が尊厳を持ち、人生を継続していくためには、支援する側の認知症の病気や日常生活への影響を理解し、その上でそれらを緩和する介護のあり方を熟知することが必要である。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 認知症の人に対する介護 認知症の人へのかかわり 2 認知症への気づき 3 初期の認知症への介護 4 中期の認知症への介護 5 後期の認知症への介護 6 ターミナル期の介護 7 認知症の人を支える介護の仕事 8 地域力を活かす一連携と協働・地域におけるサポート体制 9 チームアプローチ 10 家族力を活かす 介護者自身の体験 11 家族へのレスパイトケア 12 家族のエンパワメント 13 家族会と家族教室 14 認知症に関する制度・関係機関など 介護保険制度 15 その他の施策					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 「12 認知症の理解」			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害者の理解A	授業の種類 講義	授業担当者 小寺 まゆみ	
授業の回数 30回	時間数 15時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害の基礎的理解として、障害者福祉の基本理念を学ぶ。</p> <p>医学的側面からの基礎的知識として、身体・精神・知的・難病などについて学びその症状や合併症が日常生活に及ぼす影響を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害の知識及び身体的な症状とその背景や原因を知り、自立にむけてどのような介護が望まれるのかについて学生が自ら考えられる内容とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>障害のある人たちの生活支援の根拠の1つにできるよう、障害についての医学的側面の基礎知識を理念とともに十分身に付ける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 内部障害のある人の生活 心臓機能障害のある人の生活 ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 2 腎機能障害のある人の生活（1） ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 3 腎機能障害のある人の生活（2） ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 4 呼吸機能障害のある人の生活 ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 5 膀胱・直腸機能障害のある人の生活 ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 6 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の生活 ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 7 精神障害のある人の生活（1） ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 8 精神障害のある人の生活（2） ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 9 高次脳機能障害のある人の生活（1） ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 10 高次脳機能障害のある人の生活（2） ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 			

<p>11 難病のある人の生活（1） ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点</p> <p>12 難病のある人の生活（2） ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点</p> <p>13 障がいのある人の家族の支援（1）</p> <p>14 障がいのある人の家族の支援（2）</p> <p>15 まとめ</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 「13 障害の理解」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 試験</p>

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害者の理解B	授業の種類 講義	授業担当者 田口 謙	
授業の回数 30回	時間数 15時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 障害の基礎的理解として、障害者福祉の基本理念を学ぶ。 医学的側面からの基礎的知識として、身体・精神・知的・難病などについて学びその症状や合併症が日常生活に及ぼす影響を理解する。			
[授業全体の内容の概要] 障害の知識及び身体的な症状とその背景や原因を知り、自立にむけてどのような介護が望まれるのかについて学生が自ら考えられる内容とする。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 障害のある人たちの生活支援の根拠の1つにできるよう、障害についての医学的側面の基礎知識を理念とともに十分身に付ける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1 障害の基礎的理解 障害の概念 <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人の生活像 ・障害とは何か ・わが国における障害者の法的定義 			
2 障害者福祉の基本理念 <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーション ・リハビリテーション ・インクルージョン 			
3 障害のある人の医学的側面の基礎知識と生活の理解（1） <ul style="list-style-type: none"> ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 			
4 障害のある人の医学的側面の基礎知識と生活の理解（2） <ul style="list-style-type: none"> ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 			
5 聴覚・言語障害のある人の生活（1） <ul style="list-style-type: none"> ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 			
6 聴覚・言語障害のある人の生活（2） <ul style="list-style-type: none"> ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 			
7 肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活（1） <ul style="list-style-type: none"> ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 			
8 肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活（2） <ul style="list-style-type: none"> ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点 			

- 9 知的障害のある人の生活（1）
 - 10 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点
- 10 知的障害のある人の生活（2）
 - 11 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点
- 11 発達障害のある人の生活（1）
 - 12 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点
- 12 発達障害のある人の生活（2）
 - 13 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点
- 13 重症心身障害のある人の生活（1）
 - ① 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点
- 14 重症心身障害のある人の生活（2）
 - ② 医学的理解 ②心理的理解 ③生活の理解 ④介護上の留意点
- 15 まとめ

[使用テキスト・参考文献]

新・介護福祉士養成講座
「13 障害の理解」

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
試験

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころのしくみ		授業の種類 講義		授業担当者 中山 友則	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 人間のこころについて、基礎心理学の学習を通じて理解を深めること。					
[授業全体の内容の概要] 心理学の定義や研究方法、人格心理学、記憶心理学、学習心理学、社会心理学といった心理学の基礎領域を中心に学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 心理学の各分野における、基礎的な知識を習得すること。さらにそれを元に日常の身近な現象について考える力を身につけること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 こころのしくみ=心理学を学ぶにあたって					
2 動機付け・欲求					
3 性格心理学 (1) —性格類型論—					
4 性格心理学 (2) —性格特性論—					
5 感覚・知覚心理学					
6 記憶心理学 (1) 記憶の基本					
7 記憶心理学 (2) 短期記憶と長期記憶					
8 記憶心理学 (3) よりよく記憶するために					
9 心理学の研究方法について (体験を通して)					
10 学習心理学 (1) —条件づけ—					
11 学習心理学 (2) —その他の学習—					
12 社会心理学 (1) 対人認知					
13 社会心理学 (2) 態度、感情					
14 人間関係の心理学					
15 まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 長谷川寿一・東條正成・大野尚・丹野義彦 廣中直行 (2008) はじめて出会う心理学 改訂版 有斐閣アルマ (参考文献)			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート提出		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) からだのしくみ		授業の種類 講義		授業担当者 小寺 まゆみ	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい] 人体の正常な構造、生理的な働きを理解することで、介護サービス提供時の身体的側面からの根拠を考えられる力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] テキスト、参考資料等を使い、人間の身体の解剖・整理を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護時の利用者、介護者双方の安全・安楽な介護方法の根拠を、身体的側面より考えることができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ホメオスタシス 2 細胞・遺伝のしくみ 3 脳・神経系 4 骨・筋肉 (関節・ボディメカニクス) 5 感覚器 (視覚器・平衡聴覚器) 6 感覚器 (臭覚・味覚・皮膚) 7 呼吸器系 8 消化器系 (消化管) 9 消化器系 (肝臓・胆のう・膵臓) 10 消化器系 (腎臓・尿路・排尿・排便のしくみ) 11 循環器系 (心臓の構造と循環・刺激伝導系) 12 循環器系 (血管系・リンパ管系) 13 血液・リンパ液 14 生殖器・内分泌系 15 まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] テキスト 新・介護福祉士養成講座14 「こころとからだのしくみ」 参考文献 「生活の医学」 八千代出版			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 60点以上を認定とする		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア I		授業の種類 講義		授業担当者 亀島 千枝	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必須	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正により、一部の医行為が一定の要件下が可能となり、介護の専門職として医療的ケアを行う意義を学び、安全・適切なケアを身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1. 医療的ケアを安全に実施するための基礎を学ぶ。 2. 喀痰吸引に関する基礎知識・実施手順について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1. 医療的ケア実施の基礎を理解する。 2. 呼吸の仕組み・状態を理解し、喀痰吸引の基本的知識について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1. オリエンテーション 2. 人間と社会（個人の尊厳と自立・医療倫理・利用者や家族の気持ち） 3. 保健医療制度とチーム医療① （保健医療に関する諸制度・医療行為の法的な扱い） 4. 保健医療制度とチーム医療②（チーム医療における連携） 安全な療養生活①（喀痰吸引や経管栄養の安全な実施） 5. 安全な療養生活②（救急蘇生法） 6. 清潔保持と感染予防①（感染予防の基礎） 7. 清潔保持と感染予防②（感染予防方法） 8. 健康状態の把握①（健康とは何か） 9. 健康状態の把握②（バイタルサイン-①） 10. 健康状態の把握③（バイタルサイン-②） 11. 呼吸器のしくみとはたらき 12. 異常な呼吸状態・たんの吸引と人工呼吸器の吸引-① 13. たんの吸引と人工呼吸器の吸引-② 14. 吸引に伴う呼吸器系の感染と予防 15. 子どもの吸引・利用者や家族の気持ちと対応</p>					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア			[単位認定の方法及び基準] 小テスト3回、定期試験 出席状況・態度		


授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅡ		授業の種類 講義		授業担当者 亀島 千枝	
授業の回数 4回	時間数 8時間	配当学年・時期 1年（集中講義）	必修・選択 必須		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正により、一部の医行為が一定の要件下で可能となったことを受け、介護の専門職として医療的ケアを行う意義を学び、安全・適切なケアを身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>喀痰吸引の実施手順・留意点について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>喀痰吸引の実施手順とともに、安全確認・急変や事故発生時の対応について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1. 吸引に必要な物品と清潔保持-①</p> <p>2. 吸引に必要な物品と清潔保持-② 吸引の手順と留意点-①</p> <p>3. 吸引の手順と留意点-② 吸引で起こりうる異変と対応①</p> <p>4. 吸引の手順と留意点-③</p>					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 出席状況・態度		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅢ		授業の種類 演習		授業担当者 亀島 千枝	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必須		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正により、一部の医行為が一定の要件下が可能となり、介護の専門職として医療的ケアを行う意義を学び、安全・適切なケアを身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1. 喀痰吸引の実施手順・留意点について学ぶ。 2. 経管栄養に関する基礎知識・実施手順について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1. 喀痰吸引の実施手順とともに、安全確認・急変や事故発生時の対応について理解する。 2. 消化器の仕組み・状態を理解し、経管栄養の基本的知識について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1. 吸引の手順と留意点-④ 2. 吸引実施の報告と記録 3. 吸引で起こりうる異変と対応-② 4. 消化器のしくみ 5. 消化器の症状 6. 経管栄養とは・注入物の種類と特徴 7. 経管栄養に伴う感染と予防 8. 子どもの経管栄養・利用者や家族の気持ちと対応 9. 経管栄養に必要な物品と清潔保持-① 10. 経管栄養に必要な物品と清潔保持-② 経管栄養の手順と留意点-① 11. 経管栄養の手順と留意点-② 経管栄養で起こりうる異変と対応-① 12. 経管栄養の手順と留意点-③ 13. 経管栄養で起こりうる異変と対応-② 14. 経管栄養の実施と報告 15. 経管栄養の必要性　まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア			[単位認定の方法及び基準] 小テスト3回、定期試験 出席状況・態度		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ゼミナール		授業の種類 演習		授業担当者 三浦 玲子他	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護を広く深く学ぶために少人数の専門のコースで実践力を身につける [授業全体の内容の概要] ゼミナールを通し学生自身の関心あるテーマについて研究や調査を行う [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護の分野において課題を見つけ、その課題に対する具体的提案を行う					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数 1 少子高齢社会における社会が直面している様々な介護の問題の概況を知る 2 各ゼミナールの紹介を受け、関心あるテーマを選択する 3.  4 5 6 7 8 各ゼミナール (認知症高齢者ケアコース、居宅介護研究コース、障がい者援助 9 コース、アクティビティコース、介護研究コース、対人援助研究コース) に 10 分かれ研究をする 11 12 13 14 全体会において、各ゼミナールの研究を発表する 15 ゼミナールで振り返り、レポート作成					
[使用テキスト・参考文献] 各ゼミナールで提示			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 参加・意欲状況とレポート		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 卒業対策（国試対策）		授業の種類 演習		授業担当者 石岡 周平 他	
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 2年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士国家試験一次試験に向けた対策を行う。 [授業全体の内容の概要] 国家試験合格に向けた対策を行う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験に合格し、卒業後は介護現場で活躍できるような学生を育成する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 求められる人材とは 2 国家試験対策講座（1） 3 <u>国家試験模擬試験（1）</u> 4 国家試験対策講座（2） 5 国家試験対策講座（3） 6 国家試験対策講座（4） 7 国家試験対策講座（5） 8 国家試験対策講座（6） 9 国家試験対策講座（7） 10 国家試験対策講座（8） 11 国家試験対策講座（9） 12 国家試験対策講座（10） 13 国家試験対策講座（11） 14 <u>国家試験模擬試験（2）</u> 15 国家試験受験に向けてのオリエンテーション					
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士国家試験 過去問解説集			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席状況・態度		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術 I		授業の種類 演習		授業担当者 石岡 周平 他
授業の回数 4 5 回	時間数 9 0 時間	配当学年・時期 1 年前期	必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] <p>尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助出来る技術や知識について習得する学習とする。</p>				
[授業全体の内容の概要] <p>「その人らしい生活」を支えるために必要な介護福祉士としての専門的技術・知識を学ぶ。</p>				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] <p>あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得し、介護実践の根拠を理解する。また、介護を必要とする潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p>				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援とは何か 2. 生活支援の考え方、ICFの視点に基づくアセスメント 3. アセスメントとは何か、アセスメントの意義と手法 4. 自立に向けた介護（1）身支度の介護①（身支度とは） 5. 自立に向けた介護（1）身支度の介護②（身支度におけるアセスメント） 6. 自立に向けた介護（1）身支度の介護③（介護技術1 整容） 7. 自立に向けた介護（1）身支度の介護④（介護技術2 口腔清拭） 8. 自立に向けた介護（1）身支度の介護⑤（介護技術3 着脱の介護） 9. 自立に向けた介護（1）身支度の介護⑥（介護技術4 着脱の介護） 10. 自立に向けた介護（1）身支度の介護⑦（介護技術5 着脱の介護） 11. 自立に向けた介護（1）身支度の介護⑧（介護技術6 着脱の介護） 12. 自立に向けた介護（1）身支度の介護⑧（利用者の状態・状況にあわせた介助） 13. 自立に向けた介護（1）身支度の介護⑨（他職種の役割と協働・連携） 14. 自立に向けた介護（2）移動の介護①（移動とは） 15. 自立に向けた介護（2）移動の介護②（移動におけるアセスメント） 16. 自立に向けた介護（2）移動の介護③（介護技術1 体位変換と安楽な体位） 17. 自立に向けた介護（2）移動の介護④（介護技術2 体位変換と安楽な体位） 18. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑤（介護技術3 体位変換と安楽な体位） 19. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑥（介護技術4 体位変換と安楽な体位） 20. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑦（介護技術5 体位変換と安楽な体位） 21. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑧（介護技術6 車いすの介助） 				

22. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑨（介護技術7車いすの介助）
23. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑩（介護技術8車いすの介助）
24. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑪（介護技術9歩行介助）
25. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑫（介護技術10移動の介護）
26. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑬（利用者の状態・状況に応じた介助の留意点）
27. 自立に向けた介護（2）移動の介護⑭（他職種の役割と協働・連携）
28. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護①（緊急時とは）
29. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護②（予測される事故と予防）
30. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護③（介護技術1バイタルサイン）
31. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護④（介護技術2バイタルサイン）
32. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護④（介護技術3バイタルサイン）
33. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護⑤（介護技術4緊急時の対応）
34. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護⑥（介護技術4緊急時の対応）
35. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護⑦（介護技術4緊急時の対応）
36. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護⑧（介護技術4緊急時の対応）
37. 自立に向けた介護（3）緊急時の介護⑨（他職種の役割と協働・連携）
38. 自立に向けた介護（介護技術演習1）
39. 自立に向けた介護（介護技術演習2）
40. 自立に向けた介護（介護技術演習3）
41. 終末期の介護（1）終末期における介護の意義と目的
42. 終末期の介護（2）終末期におけるアセスメント
43. 終末期の介護（3）終末期の介護
44. 終末期の介護（4）臨終時の介護、死後の対応
45. 終末期の介護（5）他職種の役割と協働・連携

[使用テキスト・参考文献]

新・介護福祉士養成講座

6「生活支援技術Ⅰ」

7「生活支援技術Ⅱ」

14「こころとからだのしくみ」

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

実技試験（各技術項目チェックテストおよび総合テスト）と筆記試験による総合評価

実務経験のある教員による授業

介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 石岡 周平 他
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助出来る技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「その人らしい生活」を支えるために必要な介護福祉士としての専門的技術・知識を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得し、介護実践の根拠を理解する。また、介護を必要とする潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自立に向けた介護（4）食事の介護①（食事とは） 2. 自立に向けた介護（4）食事の介護②（食事におけるアセスメント） 3. 自立に向けた介護（4）食事の介護③（介護技術1 食事の介護） 4. 自立に向けた介護（4）食事の介護④（介護技術2 食事の介護） 5. 自立に向けた介護（4）食事の介護⑤（介護技術3 誤嚥・窒息の予防） 6. 自立に向けた介護（4）食事の介護⑥（介護技術4 脱水の予防） 7. 自立に向けた介護（4）食事の介護⑦（利用者の状態・状況に応じた介助の留意点） 8. 自立に向けた介護（4）食事の介護⑧（他職種の役割と協働・連携） 9. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護①（入浴・清潔保持とは） 10. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護②（入浴におけるアセスメント） 11. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護③（介護技術1 入浴介助） 12. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護④（介護技術2 入浴介助） 13. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護⑤（介護技術3 入浴介助） 14. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護⑥（介護技術4 全身清拭） 15. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護⑦（介護技術5 全身清拭） 16. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護⑧（介護技術6 清潔の保持） 17. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護⑨（介護技術7 清潔の保持） 18. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護⑩（介護技術8 清潔の保持） 19. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護⑪（利用者の状態・状況に応じた介助の留意点） 20. 自立に向けた介護（5）入浴・清潔保持の介護⑫（他職種の役割と協働・連携） 				

<p>21. 自立に向けた介護（6）排泄の介護①（排泄とは）</p> <p>22. 自立に向けた介護（6）排泄の介護②（排泄におけるアセスメント）</p> <p>23. 自立に向けた介護（6）排泄の介護③（介護技術1排泄介助・トイレ）</p> <p>24. 自立に向けた介護（6）排泄の介護④（介護技術2排泄介助・ポータブルトイレ）</p> <p>25. 自立に向けた介護（6）排泄の介護⑤（介護技術3排泄介助・便器、尿器）</p> <p>26. 自立に向けた介護（6）排泄の介護⑥（介護技術4排泄介助・おむつ）</p> <p>27. 自立に向けた介護（6）排泄の介護⑥（介護技術5排泄介助・おむつ）</p> <p>28. 自立に向けた介護（介護技術演習4）</p> <p>29. 自立に向けた介護（介護技術演習5）</p> <p>30. 自立に向けた介護（介護技術演習6）</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座</p> <p>6「生活支援技術Ⅰ」</p> <p>7「生活支援技術Ⅱ」</p> <p>14「こころとからだのしくみ」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>実技試験（各技術項目チェックテストおよび総合テスト）と筆記試験による総合評価</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p>	<p>介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 石岡 周平 他	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助出来る技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「その人らしい生活」を支えるために必要な介護福祉士としての専門的技術・知識を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得し、介護実践の根拠を理解する。また、介護を必要とする潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					コマ数
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立に向けた介護 (7) 排泄の介護⑦ (介護技術6 状況に応じた介助・機能障害1) 2. 自立に向けた介護 (7) 排泄の介護⑧ (介護技術7 状況に応じた介助・機能障害2) 3. 自立に向けた介護 (7) 排泄の介護⑨ (介護技術8 状況に応じた介助・失禁の対応) 4. 自立に向けた介護 (7) 排泄の介護⑩ (介護技術9) 5. 自立に向けた介護 (7) 排泄の介護⑪ (利用者の状態・状況に応じた介助の留意点) 6. 自立に向けた介護 (7) 排泄の介護⑩ (他職種の役割と協働・連携) 7. 自立に向けた介護 (8) 睡眠の介護① (睡眠とは) 8. 自立に向けた介護 (8) 睡眠の介護② (睡眠におけるアセスメント) 9. 自立に向けた介護 (8) 睡眠の介護③ (介護技術1 安眠への介助) 10. 自立に向けた介護 (8) 睡眠の介護④ (介護技術2 不眠時の介助) 11. 自立に向けた介護 (8) 睡眠の介護⑤ (利用者の状態・状況に応じた介助の留意点) 12. 自立に向けた介護 (8) 睡眠の介護⑥ (他職種の役割と協働・連携) 13. 自立に向けた介護 (介護技術演習7) 14. 自立に向けた介護 (介護技術演習8) 15. 自立に向けた介護 (介護技術演習9) 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 7「生活支援技術Ⅱ」 14「こころとからだのしくみ」			(試験やレポートの評価基準など) 実技試験 (各技術項目チェックテストおよび総合テスト) と筆記試験による総合評価		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援 I	授業の種類 講義	授業担当者 石岡 周平 他	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 心身の機能低下が日常生活動作にあたる影響、変化に気づくポイントと対応など医学的視点を培うことができる内容を項目ごとに学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 生活の支援のために必要とされる基本的な人体の構造や機能について学生が根拠を持って理解できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1 身じたくのしくみ			
1 なぜ、身じたくをするのか			
2 身じたくに関連したところのしくみ			
3 身じたくに関連したからだのしくみ			
2 老化による機能低下			
病気による機能低下			
障害による機能低下			
3 身じたくでの観察のポイント			
身じたくでの医療職との連携のポイント			
演習課題			
4 移動のしくみ			
1 なぜ、移動をするのか			
2 移動に関連したところのしくみ			
3 移動に関連したからだのしくみ			
5 老化による機能低下			
病気による機能低下			
障害による機能低下			
6 移動での観察のポイント			
移動での医療職との連携のポイント			
演習課題			

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 7 食事のしくみ
 - 1 なぜ、食事をするのか
 - 2 食事に関連したところのしくみ
 - 3 食事に関連したからだのしくみ
- 8 老化による機能低下
 - 病気による機能低下
 - 障害による機能低下
- 9 食事での観察のポイント
 - 食事での医療職との連携のポイント
 - 演習課題
- 10 入浴・清潔保持のしくみ
 - 1 なぜ、入浴・清潔保持を行なうのか
 - 2 入浴・清潔保持に関連したところのしくみ
 - 3 入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ
- 11 老化による機能低下
 - 病気による機能低下
 - 障害による機能低下
- 12 入浴・清潔保持での観察のポイント
 - 入浴・清潔保持での医療職との連携のポイント
 - 演習課題
- 13 排泄のしくみ
 - 1 なぜ、排泄をするのか
 - 2 排泄に関連したところのしくみ
 - 3 排泄に関連したからだのしくみ
- 14 老化による機能低下
 - 病気による機能低下
 - 障害による機能低下
- 15 排泄での観察のポイント
 - 排泄での医療職との連携のポイント
 - 演習課題

[使用テキスト・参考文献]

新・介護福祉士養成講座
6 「生活支援技術Ⅰ」
7 「生活支援技術Ⅱ」
14 「こころとからだのしくみ」

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

試験

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 石岡 周平 他	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年後期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援技術に必要な人体の構造と機能について必要な見守りから看取り（終末期）までのあらゆる介護場面において適切な介護ができることをねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>特に終末期の介護では尊厳の保持や医療との連携について介護士としての関わりを具体的に学べるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>睡眠の基本的な生活様式を理解する。終末期の介護にあたって家族への配慮ができ看取りを厳粛に受止める生活支援が提供できるようになる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>					
<p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 睡眠に関連したしくみ なぜ、睡眠が必要なのか 2 睡眠に関連したこころのしくみ 3 睡眠に関連したからだのしくみ 4 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・老化による機能低下 5 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・病気による機能低下 6 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・障害による機能低下 7 睡眠での観察のポイント 8 睡眠での医療職との連携のポイント 9 死にゆく人に関連したしくみ 10 「死」を理解する 生物学的な死 法律的な死（脳死） 臨床的な死 11 終末期から「死」までの変化と特徴 身体機能低下の特徴 死後の身体的変化 12 「死」に対するこころの理解 死に対する恐怖・不安 「死」を受容する段階 家族の「死」を受容する段階 13 医療職との連携ポイント 呼吸困難時に行われる医療の実際と介護の連携 					

疼痛緩和のために行われる医療の実際と介護の連携

14 演習課題（施設におけるターミナルケアの実際）

15 演習課題（在宅におけるターミナルケアの実際）

[使用テキスト・参考文献]

新・介護福祉士養成講座

6 「生活支援技術Ⅰ」

7 「生活支援技術Ⅱ」

14 「こころとからだのしくみ」

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

試験

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 栄養・調理		授業の種類 講義・演習		授業担当者 中野 都子	
授業の回数 15回	時間数 60時間	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉士が食の支援をする上で必要な知識と技術を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>健康維持と共に、生きる喜びである食事作りと、栄養バランスの良い食習慣や嗜好に行き届いた心遣いのケアを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>調理の大切さ、楽しさを習得し、正しい食習慣を身につける。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p style="padding-left: 2em;">各回ともテーマに応じて必ず演習（調理実習）を行なう。</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調理の基本（身支度、手法、計量、包丁の扱い方、切り方） 2 栄養の理解（栄養素の働き）①（炭水化物、脂肪） 3 栄養の理解（栄養素の働き）②（蛋白質、無機質、ミネラル） 4 食事計画（献立の立て方、高齢者の食品構成、食品の購入と選択） 5 調理の手法①（非加熱料理：洗う、浸す、混ぜる、切る、おろす、つぶす、こねる） 6 調理の手法②（加熱料理、湿式加熱：ゆでる、煮る、炊く、蒸す） 7 調理の手法③（加熱料理、乾式加熱：焼く、炒める、揚げる、誘電、誘導） 8 食品の調理性①（動物性食品：肉、卵、魚、牛乳） 9 食品の調理性②（植物性食品：米、小麦粉、芋、豆、野菜、果物、海藻草、きのこ） 10 食品の調理性③（その他：澱粉、油脂、寒天・ゼラチン、砂糖） 11 高齢者の栄養、障害者の食事調理、調味（塩、甘、酢、苦、旨味） 12 高齢者の食事と調理①（食品別に見る高齢者への配慮、調理手法別に見る高齢者への配慮） 13 高齢者の食事と調理②（調理形態にみる高齢者への配慮、味付けに見る高齢者への配慮） 14 食事と生活習慣病予防①（動脈硬化症、骨粗鬆症） 15 食事と生活習慣病予防②（心臓病、高血圧、糖尿病） 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I（家庭生活の営み）			（試験やレポートの評価基準など） 試験、出席日数、技術評価		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 被服	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当 吉田 小由美																													
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修																												
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>日常生活に必要な手縫いの技術と高齢者施設などで行うことができるものやりハビリに役立つ手芸の技法を習得させる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>作品を製作、仕上げることにより、その中のさまざまな技法を身に着けていく。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（到着目標）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な縫い方を正しく修得する。 ・基本的な手芸の技法を習得する。 																															
<p>〔授業の日程と各界のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 5%;"></td> <td style="width: 90%;">ガイダンス・基礎縫い</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="font-size: 2em;">}</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;"> 基礎縫い 手縫い基本である以下の縫い方を正しく習得する 並み縫い・ぐし縫い・半返し縫い・本返し縫い・普通祭り・ </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="font-size: 2em;">}</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;"> リハビリチュウ 身近にある材料を使用し、簡単にできるリハビリ用具を製作する ニット生地扱いと刺しゅうの技法の習得 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="font-size: 2em;">}</td> <td rowspan="5" style="vertical-align: middle;"> エコクラフト手芸 クラフトテープを使用してカゴを製作する クラフトテープの扱い方や基本的なカゴの作り方を習得し、それを応用できるようにしていく </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> </table>				1		ガイダンス・基礎縫い	2	}	基礎縫い 手縫い基本である以下の縫い方を正しく習得する 並み縫い・ぐし縫い・半返し縫い・本返し縫い・普通祭り・	3		4		5	}	リハビリチュウ 身近にある材料を使用し、簡単にできるリハビリ用具を製作する ニット生地扱いと刺しゅうの技法の習得	6		7		8	}	エコクラフト手芸 クラフトテープを使用してカゴを製作する クラフトテープの扱い方や基本的なカゴの作り方を習得し、それを応用できるようにしていく	9		10		11		12	
1		ガイダンス・基礎縫い																													
2	}	基礎縫い 手縫い基本である以下の縫い方を正しく習得する 並み縫い・ぐし縫い・半返し縫い・本返し縫い・普通祭り・																													
3																															
4																															
5	}	リハビリチュウ 身近にある材料を使用し、簡単にできるリハビリ用具を製作する ニット生地扱いと刺しゅうの技法の習得																													
6																															
7																															
8	}	エコクラフト手芸 クラフトテープを使用してカゴを製作する クラフトテープの扱い方や基本的なカゴの作り方を習得し、それを応用できるようにしていく																													
9																															
10																															
11																															
12																															

13

カルトナージュ

14

厚紙を形に切り、それに布などを貼り合わせフォトスタンドを製作する

15

厚紙を型に切る方法と布地の止めつけ方など基本的な作り方を習得し、それを応用できるようにしていく

〔使用テキスト・参考文献〕

- ・文化ファッション講座
- ・新 介護福祉士養成講座（生活支援技術Ⅰ）
- ・エコクラフト手芸 他各種手芸の本

〔単位認定の方法及び基準〕

（試験やレポートの評価基準など）

- ・作品の仕上がり
- ・作品の提出期限
- ・作品に取り組む姿勢と意欲

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護予防とアクティビティ		授業の種類 講義・演習		授業担当者 瀬戸 順子	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>レクリエーションの学びを通して①ホスピタリティトレーニングから、支援者としての援助法②アイスブレイキングを通してグループに対してのリード法③介護予防を見据えた様々な体操④実際の現場を想定したプログラム作りから計画、活動、振り返りまでを学んでいく。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>双方向のコミュニケーションを成立させ、互いに認め合える関係を成立させる媒介として楽しさ、快さを実感できる内容とする。また他者と良い関係を構築できる理解者としての姿勢を学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>目的別集団型レクリエーションの長所を引き出しながら援助の目的に沿って集団型レクリエーションを手段として活躍する方法(考え方、知識、技術)を体験を通して身につける。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1. グループワークトレーニング ・2. ①始めましてのレクリエーション②グループワーク などにより、 ・3. 基本的な援助者としてのあるべき姿について学ぶ ・4. アイスブレイキング ①リーダーや集団に対しての安心感を生む ・5. (様々な素材を使う) ②相手の名前や顔を一致させる③集団内で自然にふれあえる状況をつくる ④グループ意識をつくり育てる ・6. ホスピタリティトレーニング ①コミュニケーション法の理解②コミュニケーション・ゲーム ・7. 介護予防 ①介護予防の実際（転倒予防のためには）②高齢者の体操（ツールを使って） ③嚙下体操、歌体操、チューブ体操など ・8. 介護予防の観点から体操のプログラムを作成する ・9. ①指導案とは②指導案作り③計画④発表⑤振り返り ・10. アレンジ法 ①アレンジとは②1つのツールを使っての展開 ③対象者の設定からアレンジを試みる ・11. 障害者のスポーツ ①障害者スポーツとは ②障害者スポーツーディスクをつかって ③障害者スポーツーボッチャをつかって ・12. 設定を福祉サービス利用者とし、グループでレクリエーションの計画をし発表する ・13. ・今までの学びをすべて出力できるようにする。画一的にならないよう注意し、 ・14. 様々な視点から、グループ内で話し合い活動へと繋げる ・15. ・グループ発表の際、観察者として見学させるグループをつくり、学生同士で活動の評価を行う。 ・活動後、観察者の評価を基に各グループごとに振り返りをするとともに、反省点を生かし改めて 					

指導案を作成し直す。

[使用テキスト・参考文献]

特になし

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

試験

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） レクリエーション概論		授業の種類 講義・演習		授業担当者 瀬戸 順子	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>将来、関わるであろう高齢者、障害者とのレクリエーションは、どのようにあるべきかを常に根底に見据え、福祉サービスの一環としてのあり方を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>レクリエーションの学びを通して、基礎的な理解から生涯にわたっての活動へと広げ、地域での活動などを通してどのように事業の展開をするのか、具体的な事例を通して学んでいく。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>多面体である利用者の肯定的・積極的な側面に着目しそれらをより強化し利用者の自立性を高められるレクリエーションの基礎理論を理解し実践できるようにする。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1. レクリエーションの基礎理論 ・2. 1レクリエーションの意義 ①レクリエーションとは②歴史と背景 ③支援者にとってのレクリエーション ・3. 2レク・インストラクターの役割 ①レク支援の考え方 ・4. ②レク・インストラクターに期待される役割 ・5. レクリエーション支援論 1 ライフステージごとの課題とレクリエーション ①乳・幼児期②児童期③青年期④壮年・中年期⑤老年期 ・6. 2 高齢社会の課題とレクリエーション ①高齢社会の課題②個人への働きかけ ・7. ③集団への働きかけ④環境へ働きかけ ・8. 3 地域とレクリエーション ①地域の捉え方と課題②総合型地域スポーツクラブ ・9. ③児童館の機能と運営 などから考える ・10. レクリエーション事業論 1 レクリエーション事業とは①事業の考え方②展開方法③プログラムの組み立て方 ・11. ④グループ運営 ・12. 2 事業計画 ①個人のアセスメントに基づいたプログラム計画 アセスメント、計画、実施 ・13. 評価、記録 ・14. ②グループ活動での応用 ③手作りイベントでの応用 ・15. 3 安全管理 ①安全管理の考え方②リスク予測回避③起こった時の対応④把握する視点 					
[使用テキスト・参考文献] 特になし			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) レクリエーション活動援助法		授業の種類 演習		授業担当者 瀬戸 順子	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>レクリエーションの持つコミュニティワークを通してクラスの仲間を知る。 レクリエーション支援に必要な素材について体験を通して学び、その活動の持つ意味について考える。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>レクリエーションを単なる「遊びではない、まさに個人にとって一連の広がりを持った創造的な活動の実践として」捉えられるよう様々なプログラムを展開する</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>支援者として資質向上をはかり、「楽しみを目的とした諸活動」の具体的な援助方法を習得する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 チャレンジ・ザ・ゲーム① (キャッチングザスティック、ロープジャンピング) 2 チャレンジ・ザ・ゲーム② (トリプルリレー、バンブーダンス、ゴムダンス) 3 ダブルタッチ 4 軽スポーツ① (ダーツ) 5 軽スポーツ② (ショートテニス) 6 フィットネスゲーム① (はさみとび、腕相撲、人間ジャンプ等) 7 フィットネスゲーム② (ボールを使って) 8 ドッチビー 9 風船バレーボール 10 介護予防の観点からの体操① 11 介護予防の観点からの体操②歌を使ったレクリエーション① 12 歌を使ったレクリエーション① 13 歌を使ったレクリエーション② 14 在宅でのレクリエーション 15 アレンジ法 (レクリエーションのツールでの楽しさを残して) 					
[使用テキスト・参考文献] 特になし			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅣ		授業の種類 演習		授業担当者 亀島 千枝	
授業の回数 8回	時間数 1 2時間	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必須		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正により、一部の医行為が一定の要件下が可能となり、介護の専門職として医療的ケアを行う意義を学び、安全・適切なケアを身に付ける。ただし、医療的ケアⅠ～Ⅲ（実時間50時間）を履修したものに限る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>救急蘇生、喀痰吸引、経管栄養の各演習において、ケア実施の流れと留意点について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急蘇生法の流れと留意点を理解する 2. 喀痰吸引方法を理解し、実施することができる。 3. 経管栄養方法を理解し、実施することができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 喀痰吸引の演習の説明・デモンストレーション・演習① 2. 喀痰吸引演習② 3. 喀痰吸引演習③ 4. 経管栄養の演習の説明・デモンストレーション・演習① 5. 経管栄養演習② 6. 経管栄養演習③ 7. 救急蘇生法の手引き 8. まとめ 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ内部）と経管栄養（胃瘻又は腸瘻・経鼻）を各5回以上実施後、実技試験を行う。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類		授業担当者	
基礎実習		実習		石岡 周平 他	
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択	
—	120時間 (80+40)	1年		必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や、関連機関との連携を通してチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>(基礎A) 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等で2週間の介護現場体験実習を行う。</p> <p>(基礎B) 通所介護、グループホーム、障害者支援施設等で1週間の介護現場体験実習。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>(基礎AB共通)</p> <p>実習施設の概要を理解し、多様な介護現場の介護福祉士の役割を学ぶ。利用者の生活リズムや生活環境を知り、コミュニケーションの大切さを理解する。職員の指導の下、基本的な生活支援技術を学ぶ。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>【基礎実習A】</p> <p>特別養護老人ホーム，養護老人ホーム， 介護老人保健施設 等 2週間（10日間×8時間＝80時間）</p>			<p>【基礎実習B】</p> <p>通所介護，通所リハ，グループホーム， 小規模多機能型居宅介護，障害者支援施設 等 1週間（5日間×8時間＝40時間）</p>		
日数			日数		
1 基礎実習A			1 基礎実習B		
2 基礎実習A			2 基礎実習B		
3 基礎実習A			3 基礎実習B		
4 基礎実習A			4 基礎実習B		
5 基礎実習A			5 基礎実習B		
6 基礎実習A					
7 基礎実習A					
8 基礎実習A					
9 基礎実習A					
10 基礎実習A					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
新・介護福祉士養成講座 「10 介護総合演習・介護実習」			出席状況 本校の定める「介護実習評価表」の基準に		

町田福祉保育専門学校「実習の手引き」	沿って評価
実務経験のある教員による授業	介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類		授業担当者																					
施設実習 I		実習		石岡 周平 他																					
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択																					
—	160時間	1年		必修																					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や、関連機関との連携を通してチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホーム、救護施設、障害者支援施設等で、4週間の介護福祉士に必要な知識や技術を習得する実習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>実習施設の目的・役割・概要を理解する。利用者の状態や健康観察について学び、利用者理解を深める。職員の指導の下、利用者のニーズに応じた生活支援技術の方法やサービスの提供内容を学ぶ。</p>																									
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>【施設実習 I】</p> <p>特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホーム、障害者支援施設、救護施設等4週間（20日間×8時間＝160時間）</p> <p>日数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 施設実習 I</td> <td style="width: 50%;">11 施設実習 I</td> </tr> <tr> <td>2 施設実習 I</td> <td>12 施設実習 I</td> </tr> <tr> <td>3 施設実習 I</td> <td>13 施設実習 I</td> </tr> <tr> <td>4 施設実習 I</td> <td>14 施設実習 I</td> </tr> <tr> <td>5 施設実習 I</td> <td>15 施設実習 I</td> </tr> <tr> <td>6 施設実習 I</td> <td>16 施設実習 I</td> </tr> <tr> <td>7 施設実習 I</td> <td>17 施設実習 I</td> </tr> <tr> <td>8 施設実習 I</td> <td>18 施設実習 I</td> </tr> <tr> <td>9 施設実習 I</td> <td>19 施設実習 I</td> </tr> <tr> <td>10 施設実習 I</td> <td>20 施設実習 I</td> </tr> </table>						1 施設実習 I	11 施設実習 I	2 施設実習 I	12 施設実習 I	3 施設実習 I	13 施設実習 I	4 施設実習 I	14 施設実習 I	5 施設実習 I	15 施設実習 I	6 施設実習 I	16 施設実習 I	7 施設実習 I	17 施設実習 I	8 施設実習 I	18 施設実習 I	9 施設実習 I	19 施設実習 I	10 施設実習 I	20 施設実習 I
1 施設実習 I	11 施設実習 I																								
2 施設実習 I	12 施設実習 I																								
3 施設実習 I	13 施設実習 I																								
4 施設実習 I	14 施設実習 I																								
5 施設実習 I	15 施設実習 I																								
6 施設実習 I	16 施設実習 I																								
7 施設実習 I	17 施設実習 I																								
8 施設実習 I	18 施設実習 I																								
9 施設実習 I	19 施設実習 I																								
10 施設実習 I	20 施設実習 I																								
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」 町田福祉保育専門学校「実習の手引き」</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席状況 本校の定める「介護実習評価表」の基準に沿って評価</p>																						
<p>実務経験のある教員による授業</p>			<p>介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。</p>																						

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類		授業担当者																					
施設実習Ⅱ		実習		石岡 周平 他																					
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択																					
—	160時間	2年		必修																					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や、関連機関との連携を通してチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、救護施設、障害者支援施設等で、4週間の介護福祉士に必要な知識や技術を習得する実習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>実習施設の目的・役割・概要を理解し、地域における施設の役割について学ぶ。利用者の個別性への理解を深めるため、1人の利用者を担当して介護過程を展開する。他職種協働の理解とチームケアのあり方を具体的に学ぶ。</p>																									
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]																									
<p>【施設実習Ⅱ】</p> <p>特別養護老人ホーム，介護老人保健施設，救護施設，障害者支援施設 等 4週間（20日間×8時間＝160時間）</p> <p>日数</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 施設実習Ⅱ</td> <td style="width: 50%;">11 施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>2 施設実習Ⅱ</td> <td>12 施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>3 施設実習Ⅱ</td> <td>13 施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>4 施設実習Ⅱ</td> <td>14 施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>5 施設実習Ⅱ</td> <td>15 施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>6 施設実習Ⅱ</td> <td>16 施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>7 施設実習Ⅱ</td> <td>17 施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>8 施設実習Ⅱ</td> <td>18 施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>9 施設実習Ⅱ</td> <td>19 施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>10 施設実習Ⅱ</td> <td>20 施設実習Ⅱ</td> </tr> </table>						1 施設実習Ⅱ	11 施設実習Ⅱ	2 施設実習Ⅱ	12 施設実習Ⅱ	3 施設実習Ⅱ	13 施設実習Ⅱ	4 施設実習Ⅱ	14 施設実習Ⅱ	5 施設実習Ⅱ	15 施設実習Ⅱ	6 施設実習Ⅱ	16 施設実習Ⅱ	7 施設実習Ⅱ	17 施設実習Ⅱ	8 施設実習Ⅱ	18 施設実習Ⅱ	9 施設実習Ⅱ	19 施設実習Ⅱ	10 施設実習Ⅱ	20 施設実習Ⅱ
1 施設実習Ⅱ	11 施設実習Ⅱ																								
2 施設実習Ⅱ	12 施設実習Ⅱ																								
3 施設実習Ⅱ	13 施設実習Ⅱ																								
4 施設実習Ⅱ	14 施設実習Ⅱ																								
5 施設実習Ⅱ	15 施設実習Ⅱ																								
6 施設実習Ⅱ	16 施設実習Ⅱ																								
7 施設実習Ⅱ	17 施設実習Ⅱ																								
8 施設実習Ⅱ	18 施設実習Ⅱ																								
9 施設実習Ⅱ	19 施設実習Ⅱ																								
10 施設実習Ⅱ	20 施設実習Ⅱ																								
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]																						
<p>新・介護福祉士養成講座</p> <p>10「介護総合演習・介護実習」</p> <p>町田福祉保育専門学校「実習の手引き」</p>			<p>出席状況</p> <p>本校の定める「介護実習評価表」の基準に沿って評価</p>																						
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。																						

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 居宅介護実習		授業の種類 実習		授業担当者 石岡 周平 他	
授業の回数 —	時間数 16時間	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や、関連機関との連携を通してチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>訪問介護事業所で、ホームヘルパーに同行して利用者の居宅に訪問し、必要な知識や技術を習得する16時間（2日間）の実習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>事業所や地域社会との関わりを理解する。ホームヘルパーの役割や職員間のチームワークを学ぶ。様々な利用者及び家族の生活状況を知り、必要な生活支援の実際を学ぶ。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>【居宅介護実習】 訪問介護事業所（ホームヘルパーに同行し、1件以上の利用者宅での生活支援を学ぶ） 2日間×8時間＝16時間</p> <p>日数</p> <p>1 居宅介護実習 2 居宅介護実習</p>					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」 町田福祉保育専門学校「実習の手引き」			[単位認定の方法及び基準] 出席状況 本校の定める「介護実習評価表」の基準に沿って評価		
実務経験のある教員による授業			介護福祉士として、介護福祉施設に勤務していた。		